

# 〔畜産農家の声〕

## 全共目指して和牛とともに40年

新見市 清水 和子（備中県民局畜産第二班）

岡山県の北西部、自然豊かな牛の里、新見市哲多町で私たち夫婦2人は、水稻、園芸、和牛繁殖の複合経営をしています。

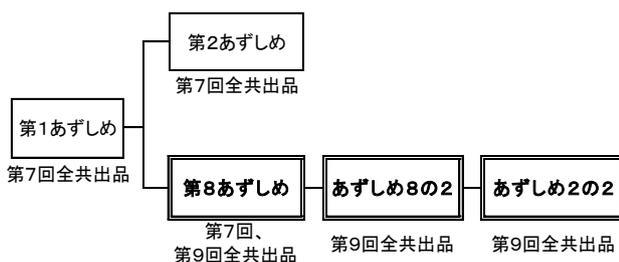
私たちの町は中山間地域で高齢化が進んでおり、田んぼがあっても高齢で耕作されていない土地が年々増えています。私たちは、自家産の稲ワラを集めるとともに、これらの耕作放棄地を借り上げて牧草を栽培し、粗飼料をほぼ自給で確保しています。また、これら飼料生産や稲作には、自家産のたい肥を利用し、資源循環型の経営に努めています。



運動場での手入れ風景

私の主人は特に和牛の改良に力を入れていることもあり、昨年、鳥取県米子市で開催された第9回全国和牛能力共進会（全共）では、第6区高等登録群に、1群（3頭）を出品させていただきました。

この区は、親子孫3頭を1群として出品するもので、「子である『あずしめ8の2』の体高がやや高い。」といった減点がありました。が、「3代通して、改良の様子がうかがえ、3代揃って種牛性に優れている。」ということから、特別賞（種牛賞）をいただくことができました。



「あずしめ」系の系図の一部抜粋  
（二重線で囲まれた牛が清水さんの飼養牛）



鳥取全共で優等6席・特別賞（種牛賞）  
となった我が家の3頭（左端が主人）

我が家の全共出品は16年前の第6回大分全共から始まりましたが、参加した当時は、同じ父系牛群の出品者は皆ベテランの方ばかりで、私たちはまだまだ新人でした。その後も全共に参加しましたが、その間、出品仲間からは多くの事を学ばせていただくとともに、改良についての楽しさも知ることができ、大変感謝しているところです。

第7回岩手全共では、鳥取全共で3世代の親として出品した「第8あずしめ」を、高等登録群親子2代（親1頭、子牛2頭）の子牛のうち1頭として出品し、優等4席という成績を収めることができました。

この「第8あずしめ」は優良雌牛系統が多く残る哲多町蚊家青木地区から導入した牛で、分娩成績が良く、産次を重ねても体型が崩れることのない良牛で、私たちも大変気に入っています。

第8回岐阜全共では、出品とはなりませんでしたが、「あずしめ8の2」が出品候補牛となっていました。これまでの改良の成果が、昨年の鳥取全共につながったのだと思います。

今年3月には「あずしめ2の2」に雌子牛が生まれ、次世代の優秀牛候補として期待が膨らみます。

今後は、他の作物との複合経営をさらにすすめ、耕畜のバランスのとれた循環型農業を行い、夫婦ともに楽しみながら、より良い牛を作っていくよう努力していきたいと思っています。